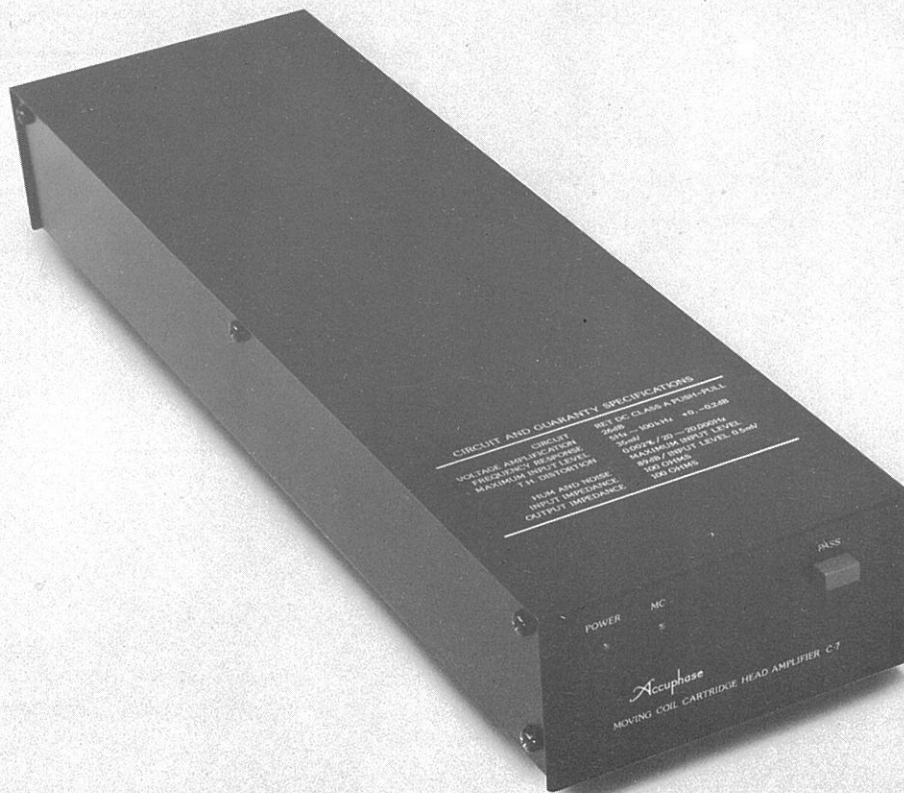


Accuphase MOVING COIL CARTRIDGE HEAD AMPLIFIER C-7

MCカートリッジ・ステレオ・ヘッド・アンプリファイヤー



アキュフェーズC-7 保証特性

ゲイン	26dB	入力換算：-152dBV
周波数特性	5~100kHz +0 -0.2dB	入力インピーダンス 100Ω
最大入力	35mVrms (20-20,000Hz, ひずみ0.002%)	出カインピーダンス 100Ω
高調波ひずみ率	0.002% 20-20,000Hz (最大入力にて)	使用半導体 26Tr, 9FET, 2IC, 8Di
S/N・入力換算雑音 (IHF-A, RIAA適用)	S/N: 72dB (0.1mV入力)	電源及び消費電力 100V, 117V, 220V, 240V 50/60Hz 5W
		寸法・重量 幅102mm×高さ61mm×奥行350mm 2.5kg

Accuphase C-7

ステレオヘッド・アンプ

最近のMCカートリッジの普及ぶりには目を見張るものがあります。このように広く普及した理由として優れた音質のMCカートリッジが比較的入手し易い価格で製品化されるようになったことがあげられますが、もう一つは特性の優れたヘッド・アンプの普及も見逃せない大きな理由だと思います。そしてこのヘッド・アンプが単品としてのみでなくプリアンプやプリメイン・アンプに内蔵され、一段と使い易くなり普及を更に急テンポにしています。

このようにヘッド・アンプが普及してきますと一方においては、ステップアップ・トランスとのコンビネーションが最上とする声も多く聞かれます。確かに優れたトランスは一種独特の雰囲気や再生してくれませんが、カートリッジを持つ本来の音色、雰囲気は優れたヘッド・アンプの方がより忠実に再現してくれると信じています。

アキュフェーズC-7ステレオ・ヘッド・アンプは、MCカートリッジ本来の個性をストレートに再現することをポリシーとして開発された製品で、C-220、C-240ステレオ・プリアンプで積みあげてきた技術を結集しました。

1 RET入力完全対称型プッシュプルA級DC構成

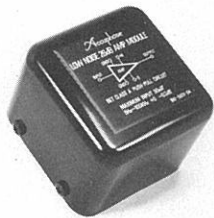
回路はアキュフェーズC-220、C-240のヘッド・アンプをベースに、第1図のように入力をRET4個による差動PPで構成、従って全段プッシュプルでDC構成となっています。RETはリング・エミッター・トランジスタ(Ring Emitter Transistor)のごとで、内部構成は小信号用素子を多数並列にしたものと等価であり、特に高域特性に優れた本来は電力増幅用として開発されたものです。

本機に採用したRETは、信号増幅用として特別に開発されたもので高域特性と共に小レベルのリニアリティに

優れています。これらの優れた特性と共に、多数素子並列構造のおかげで等価入力雑音も極めて小さく、理想的なヘッド・アンプの入力回路を構成することができました。

2 主要回路をモジュール化

増幅素子とその周辺素子はプリント・ボードにマウントしこれをケースに入れて、エポキシ樹脂を充填密封し、モジュール化しました。これにより完全に外気と遮断され耐久性の向上と、温度変化に対しても極めて安定な動作が約束されました。



《モジュール化された増幅回路》

3 更に音のクォリティを高めたいICL方式

ヘッド・アンプの入力回路は取り扱う信号レベルが低く、従って等価入力雑音も低くしなければなりません。このため一般に入力インピーダンスを可能な限り低く設定します。そのため入力カップリング・コンデンサーを大容量としなければなりません、大容量でカラレーションの少ない良質なコンデンサーは実現困難です。このような不都合を解決するために本機は入力差動回路のバランスを完全にし、入力コンデンサーを取り去りました。MCカートリッジの微小信号は入力RETに直接導かれますので、フィデリティの高い再生音を期待できます。

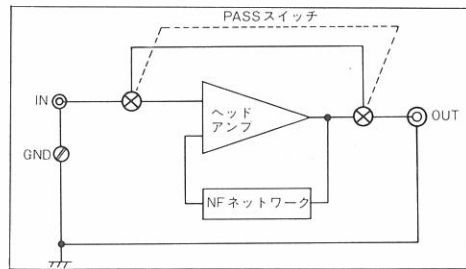
4 低インピーダンス設計の電源部

微小信号を扱うヘッド・アンプだけに、逆に電源部がアンプそのものの安定性を支配してしまいます。本機ではモジュール・アンプのすぐそばに左右チャンネルそれぞれ専用の定電圧電源を設け、広い帯域にわたって低インピーダンス化を計り、極めて安定な動作を得ることができました。

5 MC以外のカートリッジのためのPASSスイッチ

MC以外のカートリッジを使用するときは、ヘッド・アンプが不要になります。本機には、このための入・出力端子を直結するスイッチを設けました。ピンプラグを接続がえせずに、あらゆるカートリッジを使いわけることができます。(第2図)

〔第2図〕
C-7のブロック
ダイアグラム



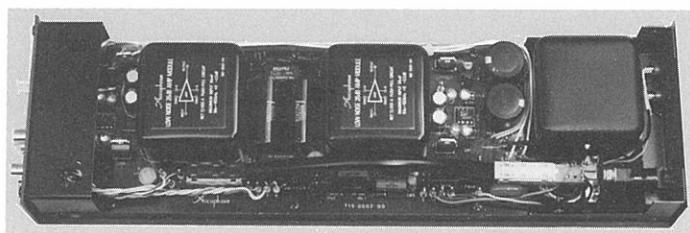
●カートリッジの出カインピーダンスとヘッド・アンプの入カインピーダンス

ヘッド・アンプの入カインピーダンスは、カートリッジの負荷インピーダンスとなるものです。つまりカートリッジを発電体と見做した場合、その負荷インピーダンスは発電体の動作をさまたげるようなことがあってはなりません。このことはアンプの出カインピーダンスとスピーカーのインピーダンスの関係に似ています。このために一

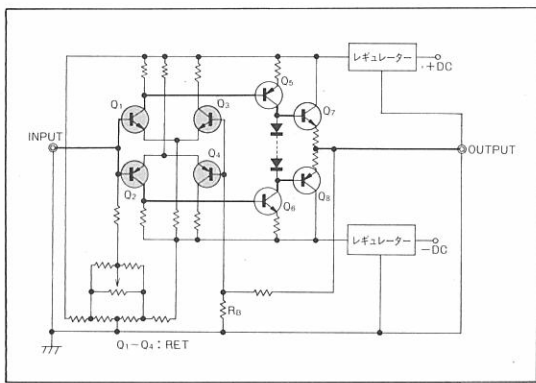
般に負荷インピーダンスは、出カインピーダンスの数倍以上の値で受けることが原則となります。

本機では、あらゆるMCカートリッジを実際に試聴して負荷インピーダンスを100Ωに決定しましたが、2~3Ωのオルトフォン・タイプの低いものからEMTのような40Ωの高いものまで、すべてに適合します。

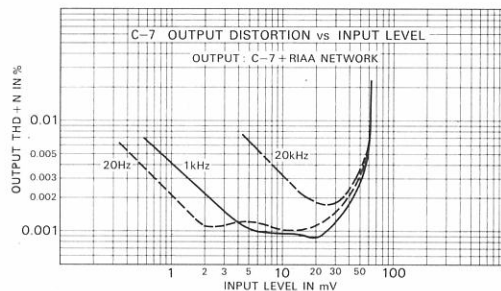
負荷インピーダンスが低くなるとカートリッジの振動系の動作が過剰制動されて、低域の量感がなくなり圧迫感のある音質になります。



《充実した本機の内蔵》



〔第1図〕
RET差動プッシュプル
入力による対称型
PP回路



●販売価格 70,000円

Accuphase

ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10 〒227